

「マッカーサーの役割知って」

企画展前に 記念館顧問ら宮崎市訪問

戦後80年

清山市長（右手前）と話すマッカーサー記念館の浜田顧問（左から4人目）とゾベル公文書専門官（同2人目）

戦後80年を記念した特別企画展「マッカーサーと現代日本の夜明け」（読売新聞西部本社など後援）が宮崎市で開幕するのを前に、米マッカーサー記念館の浜田博之顧問とジェームズ・ゾベル公文書専門官が26日、市役所を表敬訪問した。2人は「戦後日本の再出発でマッカーサーが果たした役割を知ってほしい」と来場を呼びかけた。

市によると、姉妹都市を結ぶ米バージニアビーチ市との文化交流に浜田氏が協

力していることから今回の展示会が実現したという。この日、宮崎市役所で清山知憲市長と会談した浜田氏は「歴史の真実の一つでも解釈は様々。展示会の資料を見て自分で判断してほしい」と強調。ゾベル氏も「日本の将来のために尽くしたことを分かってほしい」と述べた。

特別企画展では、連合国軍最高司令官のダグラス・マッカーサーが敗戦国の日本に進駐し、民主化を指揮した最初の5年間を中心に取り上げる。記念館が所蔵する写真や文書、映像など計160点を紹介し、憲法の起草に大きな影響を及ぼしたマッカーサーの足跡をたどる。

開催は28日～8月17日、みやざきアートセンターで。観覧料は一般600円、中高生300円、小学生以下無料。開幕日の28日はゾベル氏の講演も予定されている。問い合わせは同館（0985・22・3115）へ。